

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	14-310	慶應義塾大学
題名(原題/訳) Predictors of pretreatment commitment to abstinence: results from the COMBINE study. 断酒への治療前関与からの予測:COMBINE 研究の結果から		
執筆者 DeMartini KS, Devine EG, DiClemente CC, Martin DJ, Ray LA, O'Malley SS.		
掲載誌 J Stud Alcohol Drugs. 2014 May;75(3):438-46.		
キーワード		PMID
断酒、アルコール依存症、アルコホリックアノニムス		24766756
要旨 目的: アルコール問題のために治療に入る患者には統一された治療目標がない、そして、治療前の飲酒目標の設定は治療転帰に有意な影響を及ぼす。本研究の目的は、多数の個々の特徴(治療に影響を及ぼす因子を含む)が COMBINE (Combining Medications and Behavioral Interventions) 研究でアルコール治療を開始する前に、どのように治療目標に関連するかについての理解を深めることであった。 方法: 米国内の 11 のアカデミックな外来患者アルコール依存治療クリニックからアルコール依存症の患者(N = 1,156; 内 357 名が女性)が行動介入とアカンプロサートおよび/またはナルトレキソンと結合した無作為二重盲検プラセボ対照試験に参加した。 治療目的は、節酒、限定的な断酒または絶対断酒としてコードされた。多項ロジスティック回帰により、予測因子変数と前処置目的選択の有意な関係があるかどうか判断した。 結果: アルコール関連の問題が少ないこと、変化に対する準備が悪いこと、より世帯所得が高いこと、社会的ネットワークで日々の飲用者、これまでの治療または Alcoholics Anonymous への参加が少ないことは、絶対断酒目標よりも節酒を目標として選択することを予測した。アルコール関連の問題が少ないこと、変化に対する準備が悪いこと、社会ネットワークでより毎日飲酒する者は、絶対断酒目標より限定的断酒目標の選択を予測した。 結論: 機能が高いこと、問題が少ないこと、以前に治療と Alcoholics Anonymous に関係していること、飲酒をしやすい社会環境は、断酒ではない目標の選択と関係している。		